

電子書籍版

復刻 じかたび

婦対ニュース・婦人部ニュース・自労婦人しんぶん
(1947~1971年)



伝わる！ 闘い、物申す労働組合のエネルギー
失対労働者と機関紙『じかたび』が起こす
社会運動の大きなうねり
戦争が生み出した失業者、「未亡人」、
そしてレッド・パージされた人々……
社会的弱者が互いに結び付いたネットワーク型の組織は戦後の復興、
その裏にある社会の不条理の解消に取り組み続けた

2023年
刊行開始!

監修・解説: 杉本弘幸 (京都府立京都学・歴彩館)、大原社会問題研究所戦後失業対策事業研究会
協力: 法政大学大原社会問題研究所、全日本建設交運一般労働組合 (「全日本自由労働組合」の後継組合)

●戦後の復興期から高度経済成長期を経て1995(平成7)年まで実施された失業対策事業(失対事業)に関連する種々の資料を系統的に復刻出版し、専門研究者に提供するシリーズの第1集。

●第I期として失対事業の当事者の組合であった「全日本自由労働組合」の機関紙「じかたび」の創刊号から1971(昭和46)年刊行分まで、および組合の婦人部発行の「婦対ニュース・婦人部ニュース・自労婦人しんぶん」を復刻。

●その内容は失対事業に従事する労働者の労働条件・環境の改善要求から平和運動などへと広がる先進的な組合の活動を詳細に伝える。また時代とともに変化する日本の社会・政治状況を失対労働の現場からの視点で記録する一級資料である。

●蘇る実践の記録は、幅広い研究者による分析によって新自由主義的な社会・経済の展開に伴って広がる格差と分断、非正規労働者の増加など、現代日本の抱える問題へ有効な解決策を示す可能性を有する。

●電子書籍化による読みやすく鮮明な紙面。記事の項目を採録した詳細なしおり付き。

対象研究

社会政策、労働政策、労働経済、社会福祉学、社会保障、社会学、日本教育史、日本近現代史、日本経済史、社会経済史、社会運動史、ジェンダー史、行政学など

電子書籍版

復刻 じかたび

婦対ニュース・婦人部ニュース・自労婦人しんぶん
(1947~1971年)



『自労婦人しんぶん』
(92号・1961年1月5日)

- 「じかたび」: 創刊1号~854号(1947~1971年) 約5,250ページ
- 「婦対ニュース」: No1~No6
「婦人部ニュース」「自労婦人しんぶん」: No1~No125 (1956~1962年) 約350ページ

全15巻+解説編

全巻揃価 同時1アクセス: 398,200円+税、同時3アクセス: 597,300円+税

●第1回配本: 「じかたび」創刊1号(1947年)~372号(1962年): 全3巻(約1,100ページ)

ISBN978-4-86364-603-2

同時1アクセス: 80,300円+税、同時3アクセス: 120,450円+税 2023年11月刊行

●第2回配本: 「じかたび」373号(1963年)~580号(1966年): 全4巻(約1,300ページ)

ISBN978-4-86364-604-9

同時1アクセス: 95,700円+税、同時3アクセス: 143,550円+税 2024年2月刊行

●第3回配本: 「じかたび」581号(1967年)~693号(1968年): 全3巻(約1,200ページ)

ISBN978-4-86364-605-6

同時1アクセス: 81,400円+税、同時3アクセス: 122,100円+税 2024年6月刊行予定

●第4回配本: 「じかたび」694号(1969年)~800号(1970年): 全3巻(約1,200ページ)

ISBN978-4-86364-606-3

同時1アクセス: 81,400円+税、同時3アクセス: 122,100円+税 2024年10月刊行予定

●第5回配本: 「じかたび」801号~854号(1971年)、「婦対ニュース」「婦人部ニュース」「自労婦人しんぶん」創刊~最終号(1956~1962年): 全2巻(約800ページ)+解説編 ISBN978-4-86364-607-0

同時1アクセス: 59,400円+税、同時3アクセス: 89,100円+税 2024年11月刊行予定

電子書籍の注文は

紀伊國屋書店

KinoDen
Kinokuniya Digital Library

デジタル情報営業部
TEL:03-6910-0518 FAX:03-6420-1359
〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10
ict_ebook@kinokuniya.co.jp



【発行】 近現代資料刊行会 〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-1 ミカドビル
TEL03-5369-3832 FAX03-3358-3217
E-mail: mail@kingendai.com http://www.kingendai.com

戦後日本の貧困・差別・ジェンダーの問題を問う

杉本 弘幸

リバイバルされた美輪明宏の「ヨイトマケの唄」は、多くの方が聞いたことがあるのではないだろうか。戦後の経済不況の中で、失業者があふれていた。日本国は1949年に失業対策事業(失対事業)を始める。この事業に従事したのが、彼/彼女ら、いわゆる「ヨイトマケ」、「ニコヨン」と呼ばれた失対労働者たちである。

失対事業は、1995年度まで続けられる。だが、その歴史的分析は、ほとんど進んでいなかった。失対事業・失対労働者研究は、戦後日本の貧困と社会的差別の問題を問う、重要なテーマである。社会政策をいくら行っても、経済的、社会的に排除される人々は多く存在する。経済成長の恩恵を受ける人々は新しく就職でき、若年層や就労能力があれば、収入があがる。一方、就労能力のない人々は、経済成長が進めば進むほど、生活保護や失対事業などに滞留していく。

また、就労市場から排除された社会的マイノリティである被差別部落民、在日外国人や高齢者、女性たちなどが、失対事業に滞留していった。現在でも生活保護以下の賃金水準の人々が多く存在している。彼/彼女らは、社会的に排除されても生きていかなければな

らない。そして、ひとりひとりがいったいどのように生きていったのか。このような問題も歴史的分析から明らかにできるテーマである。

しかし、戦後失業対策事業・失対労働者のこれまでの歴史像は、失業対策・福祉政策として一時期は役だが、高齢者、女性などの「滞留層」の「自立」のために打切ったというものである。だが、失対事業のクライアントである彼/彼女らの歴史的経験は省みられていない。不況対策、高齢者対策、東日本震災の復興事業で再び失対事業が注目された。日本の高度経済成長は遠くすぎ、社会に巨大な貧困層である「アンダークラス」が、急速に膨張しつつある現在、歴史的分析からの問題提起が必要であろう。

本史料集成は、日本各地の失対事業・失対労働者に関する史資料を、多くの方のご協力のもと発掘、収集し、系統的に整理することを目指している。そのインパクトは、現状研究や失対事業・失対労働者研究のみならず、社会政策・社会福祉史、社会運動史、ジェンダー史、マイノリティ史、日本近現代史研究など、多くの分野に波及するだろう。

失対事業で働く人々の組合——全日本自由労働組合(全日自労)とは、またその活動とは

1947(昭和22)年6月30日結成の全日本土木一般労働組合(全日土木)を前身として1953(昭和28)年10月12~14日開催の全国大会で結成。職安日雇労働者を中心に日雇労働者を結集し、真の社会保障制度の確立のために失業と貧困に苦しむすべての人々と共闘することを目指す。その綱領には「最低賃金」の確立、就業労働者と失業労働者の階級的連帯性、封建的雇用制度および青年、女性、高齢者等への差別待遇の反対、軍国主義的傾向の復活強化に反対し、言論、出版、集会、結社、組合活動および政党支持の自由を確保し、基本的

人権を守る。平和産業の確立と、労働者の国際的統一行動の強化と民族の独立、民主主義と平和の守りが明記された。

その運動は、失業・雇用保障と失対事業の再確立、最低賃金制と老齢年金、健康保険など社会保障制度の確立、軍事基地建設反対、女性組合員の問題として生活保護より仕事を、男女同一労働同一賃金、有給の産前産後休暇・生理休暇の権利の確立、託児所と義務教育の国庫負担の要求、物価値上げ反対など多岐にわたり、現在でも解決が待たれる社会問題の数々に取り組んだ。



働く女性への連帯
(['自労婦人しんぶん']100号
・1961年5月5日)



男女同一労働同一賃金
(['自労婦人しんぶん']54号
・1959年2月5日)

先駆者としての『婦対ニュース、婦人部ニュース、自労婦人しんぶん』

女性失対労働者の運動、母親運動の広がりなどを確立してきた全日自労婦人部が1956(昭和31)年3月『婦対ニュース』を発行。『婦人部ニュース』『自労婦人しんぶん』とタイトルを変え1962(昭和37)年『じかたび』に合紙されるまで刊行。読みやすい大活字の採用、記事の平易化とビジュアルな要素の導入、生活記録や投書の重視など、その後の『じかたび』の編集に大きな影響を与えた。



創刊号『地下タビ』誕生
(創刊号・1947年1月15日)

団結せよ労働者
(492号・1965年5月10日)

核なき世界へ
(726号・1969年8月18日)

失対打切り反対
(号外・1962年10月26日)

「ヨイトマケ」「ニコヨン」から「世界平和」へ『じかたび』が記憶する、全日自労の運動と時代と社会



くえる賃金を
(号外・1961年8月17日)

政治へ物申す
(号外・1963年4月12日)



軍備より社会保障
(236号・1960年3月1日)



高齢者問題への先駆
(号外・1964年8月31日)

組合活動、その中心としての機関紙『じかたび』

1947年1月、東京土木建築労働組合の機関紙『地下タビ』として発刊。一時発刊停止となり1951(昭和26)年12月に復刊。1953年の全日自労の結成とともに組合の機関紙となる。以降旬刊、週刊となり1999(平成11)年まで発行された。その特色は、組合活動と一体化した「読みあい話しあい」「個人有料購読制」「独立採算制」「配達・集金活動」「拡大運動」「通信員制度」にある。